

M9.0! その影響に思う

地震その時!
被災とは言えないけど 混乱・・・
今・これからできることは・・・

地震だ!

マンションの9階、強い揺れに夫と2人、玄関を開け、靴を履き、待避。私、思わず、息子の常用の薬を居間に取りに行く。隣接の公園に出てみた。赤ちゃん連れの親子が2、3組避難してた位で、余り人影なく、むしろ静かで、これからを思って、このときはじめて怖くなった。

津波警報が出た! コンビニで、おにぎり、水を買ひ、階段で9階の家に戻った。息子の通所先から電話があり、無事で安全な場所に皆といます、送っていくが、何時になるかわからないという。海側のベランダ側から、海を挟んで、市原のコスも石油の火災の炎が真っ赤に目の前に見えた。水が出ないことを確認。親の会の防災プロジェクトのリーダーからメールが届いた。お風呂場に水をためる、ご飯を炊くなどなど、すぐに確認した。心強かった。

ここ行徳も液状化の影響で、給水管の損壊、水圧低下による断水で、17日頃まで復旧に掛かるとのこと、1階までは水がきていたので、20Lのポリタンクで、給水行動開始。エレベーターの使えそうな時を待って、台車と階段で、家まで何回も運んだ。その労力に、老父と老母を自覚した。停電に備え、懐中電灯とろうそくをかき集めて、マッチ、ライターと用意した。

息子は、当日、遅くなったが、通所の職員と近所の人の手助けで無事、帰宅。職員の帰りは遅くになり大変であったと思う。

その後のこと

通所は1週間、自主登園。次の週は、変更した送迎バス停まで、バス・電車を使つての送迎。養護学校自力通学の時とは違い、37歳となり親も歳を重ね、通勤時間帯の流れに乗るのは、少し危なっかしいと実感した。余震が続き、輪番停電もあり、グループホームは一時、休みとなったが、私の方が息子から、離れられなくなってしまった。来週月曜から、通所、ホームが、今迄通りの日課となるが、立ち上がるのに時間がまた、掛かりそう、私だけかな! これからの備えにいかせることは、気持を整理して考えよう。

(M. H 3月27日 記)



車の中で・・・

その時私は移動困難な方達の移送をしていました。信号で止まっていた時、左右にやじろべえのように大きく揺れ、電信柱が倒れて来るのではと思う程揺れはつづきました。車のTVで震源地が表示され宮城県沖である事を知りました。

透析の利用者さんを乗せ病院を出ましたが車は動かず、通常10分程のところ2時間かかり、やっとの思いでお送りしました。

習志野でも液状化

埋め立て地の秋津、袖ヶ浦方面は液状化になり、水道が出なくなったり、下水管がつまり、今もお風呂は4日に1度しか入っていない育成会会員もいます。市の広報誌には45度程に電信柱が一行に傾いた写真が載っていました。

通所施設のあきつ園、はなの実園、あかね園は下水、水道等の支障でそれぞれに数日休園になりました。どの施設も日頃の訓練が身につけていて落ち着いて行動が出来たとのことでした。今も毎日のように余震が続いています。原発の放射能もれなど不安は尽きません。

頑張れニッポン! 励ましは世界中から、冷静な国民性等も評価され・・・

利己主義的な個人主義になりつつあった日本、支え合い手をつなぎ合う事の大切さを、被災地の皆様から学んで・・・、変わり無い日々心から感謝したいです。(E. J 3月28日 記)



眠れぬ一夜

私は当日県庁ショップ担当者会に向かっていた。ようやく着いたらエレベーターはストップしており12階まで階段で・・・途中また大きな揺れ、建物のきしむ音、壁の剥がれ落ち、窓からはコスモ石油の火災をまのあたりにしてとても恐ろしい光景でした。17階の会議室へ・・・ゆらゆらと船がゆれているような感じの中での会議は歴史に残るような思い出となりそう。帰りは3時間かけて我が家に到着、市内に入ったらゴーストタウンのように信号も真っ暗でした。施設にいる子供達の安否、親の会の事業所が被害がなかったか、会員さん達に被害がなかったか、などなど思い、階段での筋肉痛に耐えながら電気のない寒さをしのぎつつ眠れぬ一夜を明かしました。ただ一つ、障害の娘ばかりに関わっている母親の私に疎遠にしている長女や孫たちが、千葉に行ったきり連絡の取れない私を案じて心配してくれたことは、当たり前のことでもちょっぴり嬉しかったです。

安否確認で会員さんにつながる

一夜明け、もうひとつの事業所に行き被害がなかったことの確認、施設の子供達の無事の確認、そして帰宅すると電気がきていて電話が使える嬉しさに山武地域の方々にかけまくりました。その時ふとパソコンを開けてみたら、権利擁護委員会の方からの安否を気遣うメールが・・・みんな同じ思いでいること、これが育成会なんだとほっと心がなごみ、さらに広い範囲で電話をしました。九十九里海岸の「かねせん」近くの会員さんの安否も確認でき、津波はおしよせても家も家族も無事だったこともわかりました。

こんな時だからこそ、お互いの気遣いの電話で会員さんとの信頼関係を深めていけるんですね。

(E. S. 3月13日 記)



夜の停電、初体験で混乱!

電気が消えると家中のスイッチを入れ「つかない!」と騒ぎだったので、「7時になったらテレビ・パソコン・洗面所・トイレ・冷蔵庫つきます」と娘と一緒に繰り返しました。今度は懐中電灯で掛け時計を照らし、7時になったかと聞いてきます。終いには置いてあったコーヒーカップを手にして自分の頭を思いっきり叩きました。よほど痛かったのでしょうか。そのままうずくまってしまいました。そして、私は停電中の娘のパニックよりもっと被災地ではご苦労されているのに、2時間ちょっとのことであたふたしてしまう自分が情けなくなりました。(M・H)

就労されている方の帰宅困難

- ★ ホームから通勤のAさんは、11日の帰路は、別ルートでバスで船橋駅まで来たが…帰れない他の方々と共に公的な施設に誘導され、結局はそこで一夜を明かし、翌日は土曜、自宅へ帰ってほっとされた。ホーム世話人はAさんと携帯が繋がらず、渋滞で迎えも諦めようやく10時過ぎに連絡が取れて一安心。
- ★ 社長さんが送って下さり、感謝!
- ★ 「今夜は、B君をお店で泊めますので、安心して下さい。任せてください」の言葉に甘え、翌朝途中の駅まで迎えに行きました。これも成長の糧にしないと...

大きな大きな揺れ、大津波、原発事故、どれも予想もしなかった大震災、悪夢。今の日本で起きるはずがないという(根拠のない)信頼を見事にうらぎられました。

障がいのある方のご不自由はいかばかりか。支援はちゃんと届いているのか、いつ元の暮らしを取り戻せるのか、勝手の違う避難先で心の安定は大丈夫でしょうか?

千葉も旭市など千葉北東部などは被害甚大です。浦安などの液状化現象による被害も予想以上。まだ大きな余震が続いて不安な毎日です。

福島原発の地域から、入所施設の方々や一般のご家族が千葉県に避難して来られています。千葉県は安全、安心な街、優しい県民の多い、人を人として貴ぶ条例のある街です。十分な支援ができると思います。

そして、出来るだけお互いを思いやり、励ましあう優しさ、冷静さを持ち続けたいものです。こんな未曾有の大災害でも略奪や暴動のない日本人の冷静さは世界から賞賛されています。元気がでますね。(赤津)